

第 6 回八代海域モニタリング委員会議事要旨

- 【1】開催日時 平成19年1月31日(木) 13:30～15:30
【2】開催場所 KKR熊本1F 有明・不知火の間
【3】出席委員(敬称略)

委員長 弘田禮一郎 熊本大学名誉教授

委員

(学識経験者)

大本 照憲 熊本大学工学部教授

門脇 秀策 鹿児島大学水産学部教授

楠田 哲也 北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授

篠原 亮太 熊本県立大学環境共生学部教授

滝川 清 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授

堤 裕昭 熊本県立大学環境共生学部教授

逸見 泰久 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授

(敬称略 50 音順)

(漁業者代表)

松本 忠明 熊本県漁業協同組合連合会代表理事会長
(代理)北川和彦 指導部次長

宮本 勝 熊本県漁業協同組合連合会第三部会長

赤山 力 熊本県漁業協同組合連合会第四部会長

桑原 千知 熊本県漁業協同組合連合会第五部会長

杉田 金義 八代漁業協同組合代表理事組合長

沖崎 義明 熊本県漁業協同組合連合会第六部会長

長元 信男 鹿児島県東町漁業協同組合代表理事組合長
(代理)濱畑幸一 営漁指導課長

(敬称略 50 音順)

(行政関係者)

坂本 清一	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室長補佐 (欠席)
照屋 規舒	環境省九州地方環境事務所環境対策課長
杉山 昌穂	水産庁九州漁業調整事務所振興課長
光成 政和	国土交通省九州地方整備局河川部河川調査官
石貫 國朗	国土交通省九州地方整備局港湾空港部海洋環境・技術課長 (代理)山口邦彦 課長補佐
深江 邦一	海上保安庁第十管区海上保安本部海洋情報部海洋調査課 長
日当 智明	気象庁長崎海洋气象台業務課長
藤巻 浩之	国土交通省八代河川国道事務所長
柿崎 恒美	国土交通省川辺川ダム砂防事務所長(代理)鷗木和博 調査 設計課長
中村 義文	国土交通省熊本港湾・空港整備事務所長(代理)久壽米木賢 治 副所長
林田 源生	熊本県環境生活部水環境課長(代理)松島章 課長補佐
田嶋 徹	熊本県地域振興部川辺川ダム総合対策課長
松永 卓	熊本県土木部河川課長(代理)軸丸英顕 主幹(計画調査係 長)
堤 泰博	熊本県農林水産部水産振興課長(代理)加来照雄 課長補佐
岩下 徹	熊本県水産研究センター所長
岩田 治郎	鹿児島県環境生活部環境管理課長(代理)長井一文 技術主 幹
藤田 正夫	鹿児島県林務水産部水産振興課長(欠席)
古賀 吾一	鹿児島県水産技術開発センター長(欠席)

(敬称略順不同)

(オブザーバー)

平山 隆夫	熊本県企業局工務課長(代理)芳崎賢一 企業審議員
松尾 昌美	電源開発(株)水力送変電部西日本支店 支店長代理

(敬称略順不同)

【4】配付資料

議事次第

- 資料—1 出席者名簿
 - 資料—2 座席表
 - 資料—3 第5回八代海域モニタリング委員会議事要旨
 - 資料—4 八代海域モニタリング調査について(定期調査・総合調査・特定課題調査等)
- その他「排水規制が変わります」(熊本県水環境課資料)

【5】議事次第

1. 開会
2. 議事

(1) 第5回モニタリング委員会での指摘事項について

- ・定期調査結果に関する指摘について
- ・赤潮に関する指摘について

(2) モニタリング実施状況について

① 定期調査

- ・2006年度調査実施状況について
- ・2005年度調査結果について

② 総合調査

- ・球磨川河口干潟底質・底生生物調査

③ 特定課題調査

- ・球磨川河口干潟地形測量(経過報告)

(3) 八代海の環境保全へ向けた取り組みについて

① 八代海の干潟の保全・再生について(案)(八代河川国道事務所)

② 環境整備船「海輝」による浮遊ゴミの回収状況について(熊本港湾・空港整備事務所)

③ 新排水規制について(熊本県水環境課)

3. 閉会

【6】議事要旨 議事

1. 開会

2. 挨拶

八代河川国道事務所長 <省略>

3. 議事

(1) 第5回委員会での指摘事項について

(議論の要旨)

- ・懸濁態窒素や懸濁態燐も調査対象としてもらいたい。
→現在まで実施していない。実施するか検討したい。【事務局】

(2) モニタリング実施状況について

(議論の要旨)

・事実として赤潮の件数が増えているが、これに対応した環境データが取得されていない。

もう少し詳しい調査を実施したほうが良い。

・赤潮に関して調査を実施するのであれば、TN、TPだけでは不十分である。また、底質は

COD、強熱減量だけでは的確な変化を把握できない。溶存態のDIN、DIP、底質の

TOC、TNがあるが、それらを使って評価したほうが良い。

・環境整備船による調査は、調査地点が八代海を縦断しており、この地点で水質の変化を見て

いけば、かなりのことがわかると思う。このデータを整理してもらいたい。

→環境整備船による調査結果については HP にて公表している。【熊本港湾・空港整備事務所】

・底質は、表層から5センチの層を採取していたら、年ごとの変化は把握できない。表層から

1センチだけを採取すべきである。

・種リストにはゴマフタマガイとあるが、これは有明海・八代海でも個体数が少なく、貴重な種である。

・赤潮は増加しており、陸上からの負荷も増えていると思われる。出水時の負荷量が測定されておらず、陸上からの負荷が過小評価されているのではないか。

・赤潮の問題は複雑な問題であり、事務局だけで調査、検討するのは難しい。何人かの委員でワーキンググループを作り、そこで検討したほうが良いと考えられる。

・水質は、流量を加味したフラックスで表現しないと負荷が見えてこないのので、出水時を含め検討されたい。

→現在取りまとめているデータは平水時の調査データが多く、出水時のデータはほとんどない状態である。出水時の調査については今後検討していきたいと考えている。【事務局】

・ノリの生産は 2004 年以降、減少傾向であるが、調査のほとんどが球磨川以南で実施されている。

湾奥部の各種調査データの蓄積をお願いしたい。

→湾奥部の観測ブイについては検討中である。【熊本県】

・何を解明するためにどのような調査を実施するのか、改めて検討する必要がある。ターゲットを絞って、それに即した形でデータを取りまとめる必要がある。

・金剛干潟のアサリは、そこで生まれた卵が幼生として着底していない。幼生の供給源が他の場所にあるのではないか。その場所を保護していけばアサリは増加するのではないか。

・この委員会で重要なのは赤潮の問題である。もう少し議事として取り上げて頂きたい。

・底生生物はスミスマッキンタイヤ型採泥器を用いて表層を採取しているだけである。表層だけで評価されており、中層に生息する生物については評価されていない。このような調査を 5 年に 1 回実施する目的が良く分からない。

・大型底生生物の調査は目視観察で実施しているが、定量的な調査を実施したほうが良いと考えられる。

・定点の観測とあわせて、面で八代海全体を見るような視点が必要である。衛星データを用いれば、八代海全体の水温、クロロフィル等のデータを入手できる。そのデータを用いて点と面の両方からモニタリングしていくという視点が必要である。

(3) 八代海の環境保全へ向けた取り組みについて

(議論の要旨)

・八代海で海輝がゴミ清掃を実施していることをこの委員会ではじめて知った。漁業者にはその活動状況が分からない状態である。情報を密にして、漁業者にも分かる形で実施していただきたい。

→ゴミが出る時は一気に出ることが多く、作業が行き届かないこともある。今後は、ゴミ回収の一層の効率化を図っていきたいと考えている。【熊本港湾・空港整備事務所】

・八代海全体をどのように捉えて、どのような環境を目指すのかを明確にした上で課題を抽出し、その課題に対してどのような取り組みをしていくべきか議論する必要がある。

・八代海の環境保全へ向けた取り組みを進めるにあたり、どの機関が費用負担するのかが欠落しているところに問題がある。現状だと熊本県と鹿児島県が主体になって進めていくことがよいのではないか。

・排水規制が変わるが、この規制によってどのくらい負荷を削減できるのか。今後、上乘せ規制により実際にどれだけ減らすことができたのかを把握する追跡調査が必要である。

・八代海の出口のところは水深が深いため、アマモ等の海草だけでなく、海藻(ワカメ)も増やしていく観点も必要である。

・八代海全体として、湾奥は干潟の保全再生、南部では藻場の保全再生が重要である。最終的には赤潮発生のない八代海をつくることを目標として、それに対するモニタリングをしていくことが重要と思われる。

・アマモは漁業者にとって重要である。八代漁協の周辺では平成 18 年度にアマモが繁殖した場所が発見された。日奈久でもアマモが生息している。ここでは、アマモの再生とあるが、具体的にはどのような取り組みを考えているのか。

→他の海域でもアマモの再生が行われている箇所があり、それらの調査、検討結果を参考として、球磨川河口干潟でも取り組んでいきたいと考えている。その際は、漁協関係者の方たちにも協力を依頼していきたいと考えている。【事務局】

・定期調査地点の設定されていない、特定の領域からの排水についてはどのように考えていくのか。

→農業関係では、環境保全型農業を推進し、減肥料、減農薬など環境負荷への削減に取り組んでいる。畜産系でも畜産糞尿の適正処理法(家畜排せつ物法)ができしており、野積みや素堀による不適正な処理が無くなった。現場指導も行われている。

【熊本県】

・荒瀬ダムは撤去される予定と聞いているが、その上流の瀬戸石ダムの撤去は考えているのか。

→撤去は考えていない。継続していきたいと考えており、御理解を頂きたい。【電源開発(株)】

(4)その他

・今回の議事要旨については委員長が確認したうえでホームページに掲載する

以上